



中道改革連合の「新たな形」をうけて -三党合流を振り返り、これからを考える-

▶▶▶詳細は裏面へ

国政の動き

政府は8月5日、2027年度からの食料品の消費税率1%と、2029年度からの所得に応じた新たな給付制度の導入に向けた基本方針を決定しました。物価高に苦しむ家計の助けとして期待される一方、財源の確保やインフレ・円安対策が課題となります。

9月4日には2027年度予算の概算要求がまとまり、

一般会計の要求総額は約143.1兆円と過去最大になりました。防衛力強化や国土強靱化などには金額を示さない「事項要求」も含まれており、最終的な予算規模はさらに膨らむ可能性があります。経済成長や防災・社会保障への必要な支出は進める一方で、その効果を厳しく検証していくことが求められます。



活動報告(7/27~9/10)

夏休み特別企画「親子で行く国会見学」では、多くのお子さんが国会を訪れてくれて、政治を身近に感じてもらえる貴重な機会となりました。冬休みや春休みにも開催しますので、ぜひご参加ください。

江戸川総合人生大学の大学祭や各地域の夏祭りでは、様々な方々と交流でき、地域の温かさに触れることが出来ました。

毎朝の駅頭活動では、たくさんの皆様から激励のお声掛けやご意見を頂きました。一人ひとりから寄せられるお声を大切に受け止めて参ります。

この夏、全国各地を襲った地震や豪雨の災害を目に

し、防災・減災への備えの重要性を改めて感じています。11月に設置される「防災庁」の活動にも注目したいと思いますが、災害時には地域の方々の支えあいも大切であり、日頃から顔の見える関係を築いていくことも重要ではないかと思っています。

熊本地震の募金活動でお預かりした130,699円は全額を熊本県の義援金口座に振り込みました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

地域の暮らしの中にこそ政治の原点がある——その思いを胸に、これからも皆さまの身近な存在として、現場を歩き、声を聴き、行動してまいります。

「チームしばかつ」メンバー大募集

柴田かつゆきへの応援をお待ちしております！

まずは公式LINEで「しばかつ」最新情報を受け取っていただくだけでもうれしいです！！後援会やボランティアへのご参加も募集しております。

公式LINE



X (Twitter)



【中道改革連合をめぐる事実経過】

中道改革連合は今年1月、立憲民主党と公明党の衆議院議員を中心に結成されました。当初は衆議院選挙後、両党の参議院議員や地方組織も合流し、さらに大きな政治勢力となることが想定されていました。

しかし、2月の衆議院選挙で惨敗という結果となり、その後の合流に向けた協議も難航しました。8月末には3党が1つになる形での合流を断念し、9月9日、中道改革連合の今後の「新たな形態」が決まりました。所属している衆議院議員49名のうち、公明党出身者28名は公明党に復党、立憲民主党出身者のうち20名は新党を結成し、うち1名は中道改革連合に残って残務処理を済ませた後で新党に加わる方向です。なお秋の臨時国会では統一会派「中道」をつくり、国会活動などでは引き続き連携するとされています。

この経過については私自身にも大きな反省が必要と認識しています。選挙直前の短い期間で立憲民主党を離れ、中道改革連合に合流しましたが、「なぜ合流するのか」「合流して何をを目指すのか」を皆様にきちんと説明できませんでした。また、選挙後7ヶ月を費やしても中道勢力の結集を果たすことができませんでした。

2024年に立憲民主党で当選し、今年2月には中道改革連合の候補として選挙を戦った者として、**それぞれの選挙で私を応援し投票して下さった皆様のご期待を裏切ってしまったことを、心よりお詫び申し上げます。**

【政権交代のための「大きな固まり」をつくる】

それでも、**日本の政治を良くするためには政権交代が必要であるという私の信念に変わりはありません。**

長く同じ政治勢力が政権を担い続ければ、政治の緊張感が失われ、癒着や利権が生じて国民全体の利益より一部の利害が優先される危険があります。「国民の支持を失えば政権を失う」ことが、与党にとっても野党に

とつても、より良い政治を作る力になると考えています。

そして、小選挙区289名・比例代表176名という現在の衆議院選挙において、**政権交代を現実の選択肢にするには、小選挙区でも自民党に対抗できる、一定規模の政治勢力を作ることが必要です。**

ただし、「選挙に勝つために数を集めればよい」ということではありません。今回の経過を振り返っても、勢力を結集したいということが先に立ってしまい、政策の議論や、それぞれの政党を支持してくださっていた皆様への説明が不十分であったことが、大きな反省点です。**政権を担える政治勢力は一足飛びに作るのではなく、政策の一致や国民の信頼を一つずつ積み重ねながら、段階的に作っていくべきです。**

2012年の民主党政権崩壊後、野党は分裂と対立を繰り返してきました。他方、一度は分かれた旧民主党の議員が再び集まり、2020年に現在の立憲民主党が結成された経験もあります。**全ての意見が一致しなくても、共通する目的や政策を確認し、共に行動して信頼を積み重ね、政権交代につなげることは可能です。**

【私の今後について】

旧立憲の衆議院議員が結成する新党については、これから基本政策などが示されるとのことです。私自身の今後については結論を急がず、新党の政策や今後の政治状況をよく見極めたうえで判断したいと考えています。

いずれにしても、私は「誰も見捨てない政治」「社会保障立国」「利権より人権」という原点を忘れることなく、衣食住・医療・介護・教育・雇用・人権・平和など、暮らしに直結する問題について、国民の皆様にとって何が必要かというところから考え、行動していきます。

今回の経過についてどう感じるか、また新しい政治勢力に何を期待するか、ぜひ皆様の率直なご意見をお聞かせください。

柴田かつゆき プロフィール

1968年10月生まれ。開成中高・東大法学部卒
「困っている人を、助けたい。」との想いから弁護士となり、今年で31年を迎える。司法研修所刑事弁護教官、第二東京弁護士会副会長などを務めた。刑事事件の弁護人などの経験から国会議員を志し、2024年10月の衆議院選挙で初当選。2026年2月には落選し、次回選挙を目指して活動中。政治信条は「社会保障立国」「利権より人権」「トリクルアップ経済(「下から」の経済成長)」

編集後記～スタッフのひとりごと

今年の夏は、本当に災害の多かった夏でしたね。

まだ被災生活を続けている方々には、一日も早い復興を願うとともに、私たちも出来ることをしていきたいと思っています。

我が家も震災対策はしていたものの、水害対策は気にしていなかったため、この夏に家族でいろいろ話してみました。皆さんも是非もう一度身の回りの対策を見直してみませんか。



◀◀◀公式サイトはこちらから

〒134-0091

柴田かつゆき事務所

東京都江戸川区船堀1-4-10 第2乙女屋マンション 604

TEL 050-8886-1651 / MAIL office.kshibata@gmail.com